

キャラクター名  
アヤメ

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー ウロボロス		ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	FHチルドレン
	オプション		年齢	16	性別	女
覚醒	感染	衝動	飢餓	初期侵食率	32%	
出自	疎まれた子	経験	敵性組織	邂逅	殺意	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	3	0	0			3	行動値	5
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	6
精神	3	1	0			4	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達	7	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
氷翼		-1	12	0		クリスタルシールド相当
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
宵闇の外套		8		-1	ガード宣言時に使用しガード値+5、侵食値+2

所持品	
守護者の手袋	
コネ:手配師	

合計装甲: 8    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス起源種	P	N		
上村 総二	P 慕情	N 悔悟		
仇(種別白兵)	P 執着	N 憎悪		
卿	P 尽力	N 不安		
ビーストマスター	P 好奇心	N 恐怖		
落水沈	P 幸福感	N 劣等感		
	P	N		

最大財産P: 16    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
氷盾	3	3	オート					
効果: ガード値+LV×5								
蒼き悪魔	5	3	オート				1 r-回	
効果:								
原書の紫:暗黒螺旋	5	4	オート				1 r-回	
効果:								
炎陣	1	2	オート					
効果:								
フェニックスの翼	1	3	クリンナップ					
効果: hpをLV×5点回復、戦闘以外だと1シーン一回								
イージーフェイカー:折りたたみ	1							
効果: LV個までアイテム隠せる。クリスタルシールドを服に小さな羽状のアクセサリとして隠蔽								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

チルドレンとして生まれたが、能力なしであった為処分されかけた所をUGNの若手幹部であった上村総二によって拾われ、彼の秘書となった。最初は彼がなぜ自分のような無能を引き取ったのかわからなかったが、何年も彼と過ごす内に彼がただひたすら優しい人なのだと理解する。不器用だが誠実でまっすぐな青年、そんな彼に世間知らずな上彼に救われた少女が惹かれていったのは当然の結果であっただろう。彼とともに過ごした7年間はとても幸せであった。ある日、彼はFHの幹部と知り合い彼の理想に共感したのだと目を輝かせていった。最初は少女は異かと疑った。そのFH幹部の情報を見る限り、それはなさそうであると判断しいつもどおり彼の為に働くことを決める。だが、UGNの強硬派に幹部である彼がFHと通じているという情報がばれ、彼は殺された…。当時チルドレン出身でありながら、覚醒していなかった少女は見逃され、記憶を消され表の世界に戻されるはずであった。だが、彼の体から流れた血液に触れ少女は目覚めた。その結果少女は、UGNから逃げ出しFHに流れ着いた。目的は2つ、彼の仇を、UGNのあの男を殺すため、そして彼が目指した理想を実現するために彼が信じた男を守るため。ほかのセル同士の関わりが薄いFHは身分を隠すのもってこいだったのもある。

アヤメは彼が好きで、彼が好きだといったから名前がなかった少女はそれを名前にした。花言葉は「信じる者の幸福」

欠けた翼は、彼のことが…能力は、水でできた片翼で誰かを守りそして、翼に触れたものに報いを与えること。彼を守りたいと思った心と、彼の敵を討ちたいという復讐心が生み出した二律背反の力。彼の為だけを想い生み出した翼は、彼という支えを最初から失っていたのだ。故に彼同様欠けた翼は二度と戻らない